

東南アジア最後の軍事独裁国家ビルマ(ミャンマー)は2011年3月30日、半世紀に及ぶ軍政に終止符を打ち、「民政移管」を果たした。これまでビルマ軍政に曖昧な態度を取り続けてきた国連や日本などは、この民政移管の流れを受け、政治・経済・文化的な交流を進めようとしている。

だが、ビルマは果たして本当に変わったのだろうか。民主主義国家の衣だけをまとった新体制の下、ビルマの人びとにはいまだに発言の自由はなく、当局により市民生活は監視されている。さらに少数民族への弾圧などの人権侵害は続き、60

関心を持ってば、世界は広がる

年を超える世界最長の内戦も未解決のまま、ビルマ人難民の流出はやまない。

ビルマ国軍は、旧日本帝国陸軍の支援によって第2次世界大戦中に創設され、日本とは歴史的に深い関わりがある。また、現在、在日ビルマ人は1万人を数え、日本における難民の申請者数・認定者数・在留許可数はいずれもビルマ人が最も多い。ビルマ問題は決して、遠い国の出来事ではない。ところが、軍政下のビルマは長年「閉ざされた国」であったため、この国に関する情報は不確かなどころが多い。そんなビルマ(ミャンマー)という国を、事実関係を確認しながら、振り返ってみたい。

ビルマ(ミャンマー)の今

2011

ビルマ?
ミャンマー?
正しい国名はどっち?

アウンサンスーチーさんは、誰に、なぜ、軟禁されていたの?

ビルマで暮らしている人々の現実は、どんな生活なの?

一般公開・参加無料



7年ぶりに解放され歓迎を受けるアウンサンスーチーさん＝2010年11月14日(宇田有三撮影)

2011年度 人権教育研究室 研究部会 第1回 公開研究会

2011年12月2日(金) 15:10～ 公開トークセッション

関西学院大学 図書館ホール (大学図書館 地下1階)

基調報告

トーカー

コーディネーター

関西学院大学人間福祉学部 准教授 / 研究部会代表

フォトジャーナリスト

ビルマ情報ネットワーク ディレクター

宇田 有三

秋元 由紀

川村 暁雄

〈同時開催〉

11月28日(月)12:30～12月2日(金)17:00

関西学院大学 大学図書館エントランスホール

宇田 有三 写真展